

平成22年度高校生ものづくりコンテスト山形県大会 木材加工部門

山形県立新庄神室産業高等学校
事務局 阿部 稔

1 はじめに

本大会は、7月下旬に本県で開催した「高校生ものづくりコンテスト2010東北大会兼全国大会代表選考会」のプレ大会と位置づけ、県内建築系学科を設置している6校によって、実行委員会を組織し運営に当たった。

2 大会概要

1) 大会期日及び会場

平成22年6月12日(土)

山形県立山形職業能力開発専門校 1年実習棟

7月29日(木)～30日(金)に東北大会が開催されるため、例年より一週間早く実施した。

2) 参加校

山形工業高等学校、米沢工業高等学校、新庄神室産業高等学校、長井工業高等学校、山形電波工業高等学校、以上5校から2名ずつ、計10名が参加した。

3) 課題

第10回ものづくりコンテスト全国大会と同等の「小屋組み」の課題を、支給されたスギ材と指定された工具を使用して、3時間の競技時間内で完成させる。審査は、「墨付け・部材加工・組み上がり」について細部項目を設定し採点した。

4) 実行委員会

大会運営に関わる業務分担や、開催要項、競技課題、審査基準、審査方法等について、3回の実行委員会(競技運営委員会を含む)を開催して協議した。また競技運営や審査方法について、リハーサルを行った。

5) 審査

山形職業能力開発専門校主任指導員、大泉昇先生に審査委員長を依頼し、競技運営や審査について指導をいただいた。また、東北大会を控え審査体制を充実させるため、外部審査委員(山形職業能力開発専門校教員4名、山形建築組合員2名)と県内建築系設置校教員6名、合わせて12名で審査を行った。県大会では審査項目が細分化され、膨大な配点のデーター入力と確認作業に時間がか

かってしまったため、東北大会に向けて得点の入力方法を改善することとした。

3 大会結果

競技課題は前年の「小屋組み」の梁が、勾配0.5/10の「昇り梁」に変更になり、墨付けや部材加工に、より精度が求められるものとなった。これにより制限時間内に完成できるか懸念されたが、10名中9名が完成することができた。高度な技術と集中力が要求される難しい課題に対して、作品の完成度も高く、東北大会出場を懸けて建築技術を競い合う白熱した大会となった。

なお、成績上位者は以下のとおりである。

優勝	山形工業高校	若林 信 君
準優勝	山形電波工業高校	大場 康希 君
(以上2名は東北大会へ出場)		
第3位	長井工業高校	山口 貴浩 君



出場者と完成作品

4 おわりに

今大会は、競技課題の難度が高まった割には、殆どの選手が制限時間内に質的にも良い作品を完成することができた。また、優勝者と準優勝者の総合得点は僅か1点差であり、ものづくりコンテストの取り組みが、本県工業高校生の建築木材加工技術の向上につながっていることが伺えるものとなった。

最後に、本大会の運営に関して山形県立職業能力開発校の全面的な御協力と、実行委員の先生方に感謝を申し上げる。